

令和7年度 施策事前評価シート

施策責任者 所属	企画財政課		電話番号	直通	989-5504
基本目標	住みやすく働きやすい豊かなながいずみ				
政策	快適で便利なまちの実現		施策分野	公共交通	
施策分野 の総事業費	前年度 決算額	64,750	千円	今年度 予算額	79,920 千円

施策の進捗状況

	成果指標名称	年度	現状値	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	単位	進捗 評価
1	公共交通が充実していると思う市民の割合	目標値		18	22	26	28	30	%	A
		実績値	—	27.6	33.0	35.1	30.0			
2	コミュニティ交通の利用者数	目標値		42,500	45,000	47,500	49,000	50,000	人	D
		実績値	39,098	30,767	32,692	32,071	35,414			
3		目標値								
		実績値								
4		目標値								
		実績値								
				総合評価			D：事業の見直しが必要			

事前分析

施策分野における これまでの 取り組みの概要	コミュニティバス（南北線、循環線A、循環線B）の運行、民間乗合バス事業者への支援、デマンド乗合タクシー（ももタク）の運行、マイナンバーカード活用タクシー利用助成事業の実施、バスロケーションシステムの導入、コミュニティバスの路線再編（令和5年1月）、AIオンデマンド交通実証運行（令和6年8月）、小学生バス無料デーの実施（令和6年12月）、循環線の減便の実施（土日及び年末年始）（令和7年6月）
施策分野における 背景・環境 及び抱えている課題	・住民意識調査の設問が、令和2年度は「全員」が対象であったが、令和3年度からは調査対象のうち公共交通を「利用している」または「ときどき利用している」と回答した方に限定して回答を求めた。 ・町BUSMAPの配布や各種イベントにおいて公共交通PRブースの出展を行うなど利用促進の周知を実施してきたが、利用者数の低迷と経費の増大により、令和7年6月より循環線の減便を実施するなど、公共交通を取り巻く環境は非常に困難な状況にある。 ・ももタクは、路線バスの退出に伴い、その代替交通として平成30年10月より運行を開始し、直近3年間の利用者数は年間1,600人前後で安定推移し、地域の足として地域に根付いているものの、収支率が低迷している。 ・居住地、年齢層により求めている公共交通ニーズが異なることから、より多くの市民から高い満足度を得ることができる公共交通システムの構築が求められる。
施策分野における 改革・改善内容 及び今後の見通し	・循環線が令和8年1月に実証運行期間の満了を迎えることから、これまでの利用状況や運行内容、ルート等の課題を考慮し、本格運行へ移行しないことを前提とした今後の公共交通サービスの方向性について検討する。 ・タクシー事業者の労働条件の水準を確保するため、今秋から県内タクシー運賃の値上げ（直近令和5年9月実施）が予想されることから、併せてももタクの運賃の値上げを実施し、収支率の改善を図る。 ・これまでのAIオンデマンド交通実証運行やマイナンバーカード活用タクシー利用助成事業、乗降調査等を踏まえ、公共交通全体としての在り方について最適な手段を検討する。